

研究班紹介

第5班 「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社

後田多 敦 (非文字資料研究センター研究員 / 研究班代表)

近代日本はその領域を拡大しながら、植民地や占領地などを獲得していった。領土と位置付けられた沖縄では伝統的な祭祀空間を再編し、新たに獲得した植民地などでは台湾を皮切りに海外神社を創設していった。海外神社は外へ広がっていく「帝国日本」の広がりを示すものであり、「外地」と「内地」の境界では沖縄に象徴されるような祭祀再編などとなってあらわれた。海外神社や祭祀再編の事例から、「帝国日本」の有り様が浮かび上がる。

本研究は「海外神社」班の視点と成果を受け継ぎながら、近代日本の「内地」と「外地」の境界としての近代沖縄における祭祀再編と神社の動向を踏まえ、あらたに北海道・樺太などの事例なども加えていきたい。そして、「帝国日本」における神社や祭祀空間、祭祀再編などの持っている意味を考えたい。

領域としては景観や環境、図像資料とする。方法としては「帝国日本」の祭祀空間の跡地や関連図像などの整理収集と分析から、その意味を考えていく。共同研究の

対象は、沖縄のほか内地外地の境界とされた地域とするが、海外神社の前史との問題意識からも COE 時代からの海外神社研究も副次的に継続する。特に、これまでの成果を出版物（写真集や共同研究論文集）で発信するほか、データベースの構築を行う。



研究班紹介

第6班 非文字資料の流過程における諸問題を解決するための機械学習やブロックチェーンなどを応用した基盤技術に関する研究

木下 宏揚 (非文字資料研究センター研究員 / 研究班代表)

非文字資料研究において研究者と一般の資料提供者が協力して資料の収集整理を行い、その研究成果を社会に発信し還元するためには、「資料の関連性や作業内容に即した検索とマイニング」、資料提供者や研究者の個人情報や重要情報、著作権の管理、資料提供や作業の対価やインセンティブとなる「多様な価値観に基づく地域通貨的価値交換」が必要となる。本研究では、「知識とサービス、物の流通と価値交換」、「知識とサービスの検索とマイニング」、「個人情報や重要情報、著作権の管理」で必要な基盤技術に機械学習とブロックチェーンなどを応用する。具体的にはアクセス制御に必要な資料間の関係性や電子透かしで必要な画像固有の情報の抽出に機械学習を利用したり、流過程のコンテンツの作成、登録、利用、譲渡、二次利用などの時系列をとまなう事象の発生をブロックチェーンを利用して信頼できる第三者を仮定することなく行うことなどが挙げられる。

